

# 第1学年1組 学級活動(1) 指導案

2026年1月22日(木)  
児童数 25名  
指導者 小嶋 宏典

- 1 議題 くわしくなろう ともだちクイズ集会をしよう  
(ア 学級や学校における生活上の諸課題の解決)

## 2 議題選定の理由

○ 本学級の児童は、「えがお」という学級目標を共有して、学級会に取り組んできた。1学期には、人に笑顔にしてもらうのではなく、「自分たちでみんなが笑顔になることを考えよう」をめあてに、「迷路宝探し集会」をした。2学期には「秋祭り集会」等をして、協力して準備に取り組み集会を自分たちで作上げた。しかし、そこで考えた内容のルールがみんなで共有できずに、楽しめない時間も一部生まれた。その課題から、みんなが分かるルールの集会をすることをめあてに「障害物リレー集会」を行った。そこでは、自分たちで考えた障害物のルールを全員で共有し、ルールを間違えることなく笑顔で行える集会となった。一方で、みんなのアイデアを取り入れることができず、一部の意見のみで集会ができていていると感じている児童もいたことが課題として残っている。4月から話し合い、集会を繰り返す中で、司会グループの役割や話し合いの流れを徐々に理解してきた。分からないことを質問して理解しようしたり、課題のある意見に対して改善策を考えたりして、みんなでよりよい集会を作り上げようとする姿が見られるようになってきた。しかし、理由を言葉にすることが難しく、「楽しいから」という簡単なことばで話が進むことが多い。

○ 本議題は、「まだお互いのことをよく知らないからもっと友達のことを知ることができることをしたい。」という思いから提案された。クイズの形式で行う集会とすることで、1年生にも集会の想像がしやすい。また、今回の議題では、クイズの形式を事前に共有しておき、クイズの準備をする児童ごとに考えることとし、「どんな題でクイズをするか」を考えていく。1、2学期と長く過ごしてきたがお互いのことを知らないことは、まだ多くある。学級の友達のどんなことが知りたいかを話合うことで、他者に目を向け、相手を意識しやすい。そういった相手への理解が、より良い人間関係形成につながる議題であると考えられる。

○ 話し合い活動では、「どんな題にするか」を柱にして話し合う。話し合い活動では、全員が意見をもって、話し合いに臨めるように学級会ノートに意見を事前に書いておく。その時に提案者の具体的なイメージを伝えて、より具体的に考えられるようにする。また、事前に自分のことを考えて、クイズの形式で伝えられる準備をしておくことで、集会を想像しながら話し合いができるようにする。話し合いの中では、友達の意見を理解するために質問して、みんなが分かろうとする姿勢で聞けるように声かけしていく。「比べる」では、「好きな○○」の意見が多く出ることが予想される。こういった意見は、一つに仲間分けしておき、より学級の友達の考えや頑張りに目を向けられるお題の良さが共有できるようにしていく。司会グループは、「出し合う」の段階まで台本を使いながら、自分たちで進められるようにする。話し合いを深めるために「比べる」の段階からは、指導者が司会となり話し合いを進めていく。およそいくつぐらいにまとめるかを事前に共有することで、どの意見が提案理由に沿っているかについて比べる意識をもてることができるようにしたい。

## 3 目指す子どもの姿。

- ・学級の友達に興味をもちもっと知りたいと発信することができる。

## 4 評価規準

より良い生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を より良くしようとする態度
「どんなお題ですか」について出し合った意見を提案理由に沿った理由で比べて、合意形成することを理解している。	出された意見の良さを比べながら考え、合意形成を図り、仲良く助け合って実践している。	自分の意見を発信したり、分からないことを共有したりしながら、集会の実現に向けて役割を意識し、協働して取り組もうとしている。

## 5 事前の活動

日時	児童の活動(☆全員 ★計画委員会)	指導上の留意点・支援
1月8日(木) 休み時間	★議題を選定、決定する。	・学級目標、前回の学級会の課題を観点にして、議題を選定する。
1月19日(月) きらきらタイム	☆自分の考えを学級会ノートに書き、司会グループに提出する。	・自分たちの力で、できるかどうかを考えながら、提案理由に沿って具体的に書くように助言する。
1月20日(火) 休み時間	★出された意見を分類整理し、どのように話し合いを進めるか、見通しをもつ。	・司会グループと一緒に意見を確認し、どのように話し合いをするか見通しをもてるようにしておく。

## 6 本時のねらい

- ・出し合った意見を確認して、学級の友達への理解が深まる題はどれかを考えながら、話し合いができる。

## 7 児童の活動計画（別紙）

## 8 教師の指導計画

話し合いの順序	指導上の留意点・支援	目指す児童の姿
話し合いのめあてを確認する 決まっていることを確認する	司会グループと確認しながら予め板書しておく	
話し合いをする  柱1 「どんなお題にするか」 出し合う ・好きな食べ物      ・好きな遊び ・好きな勉強      ・好きな色 ・得意なこと      ・苦手なこと ・1番の思い出      ・宝物 ・1番頑張ったこと ・頑張っていること  比べる ・出し合った意見の中でどれがお互いのことをよく知ることにつながるか考え、分類しながら意見を比べる。  まとめる ・司会グループが決まったことを確認する。	・司会グループと共有した話し合いの進め方をフロアとも共有して話し合いを進める。  柱1 出し合う ・好きな〇〇が多く出てくる場合は、1つの意見としてまとめ、それ以外の意見が出るように声かけしていく。 ・クイズを実演することで、友達のことを知ることができるお題の良さを実感できるように促していく。  比べる ・にている意見をまとめていくことで協力してできることを声かけする。 ・「苦手なことを頑張っているとき応援できるから。」「自分も好きだから一緒にやりたい。」など理由を詳しく言えるように声かけする。  まとめる ・決まったことと役割で考えることを明確にして伝えられるようにする。	【主】 ・自分の考えを具体的に伝えようとしたり、分からないことを質問したりして、理解しようとしている。（フロアの発表）  【思・判・表】 ・提案理由に沿って、出し合った意見の良さを見つけて比んでいる。 （司会・フロアの発表）  【知・技】 ・提案理由に沿って、全員が理解できるように意見を出している。（フロアの発表）
教師の話を聞く	提案理由に戻っている姿、分からないことを意思表示できている姿を価値づける。	
話し合いをふり返る ① 司会グループ ② フロア	話し合いにおける自分や友だちのがんばりについて振り返ることができるよう助言する。	【主】自分や友達の良さを見つけ、めあてについてふり返っている。（学級会ノート）

## 8 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点・支援	目指す児童の姿 【評価の観点】（評価方法）
1月23日（金） きらきらタイム 休み時間	集会の準備をする。	クイズの題ごとに合意形成ができるように助言していく。	【主体的に取り組む態度】 集会の実現に向けて、協働して決めた題のクイズづくりをしている。（観察）
1月28日（水） 特別活動	集会を行う。	自分の役割に責任をもって取り組めるように声かけしていく。 集会をよりよくしようと実践している児童を価値づけしていく	【思考・判断・表現】 実践の中で振り返り、より良い集会にしようと協働している。（観察）